

津村光璃 教員

佐賀大学大学院
地域デザイン研究科卒

佐賀大学芸術地域デザイン学部にて 4 年間学び、その学びを深めるため同大学の大学院に進学し 2 年間を過ごしました。私にとってこの 2 年間は私の今後を左右する出来事、人との出会い、様々な経験を積むことができました。

学部生の時は、ちょうど私たちが 2 年生のときに新型コロナウイルスが猛威をふるい、満足に大学へ行くことすら叶わない時期がありました。当たり前前なのが、実は当たり前ではないことを痛感し、反動に大学にいるうちに大学でしかできないことを目一杯やろうという強い思いが、私にも学部の同期たちにもあったかのように思います。学ぶ環境、人との繋がり、制作がつつがなくできること、これらの当たり前前のように当たり前ではなかったことを大切にしながら、日々を過ごすことが私の学びのベースになっていたと思います。

「日々を大切に」は、大学院でも継続して行い、制作活動においても論文執筆においても 1 つ 1 つを丁寧に着実に行いました。自身の専門である染色工芸の分野以外にも目を向けて絵画の世界、美術の世界、工芸の世界について、考える視点を手に入れることができたと思います。その大きな視点を持つことができたのは、染色工芸教室の中で止まっていた交友関係が大学院進学により絵画、現代美術、映像表現、様々な専門分野において学ぶ大学院での同期たちとの間で生まれ、たくさんのお話をしてきたからです。学んでいることは近いけど、違う人との交流、意見交換、ときには身も蓋もない日常会話は、自身の視点を変え、視野を広げてくれる大切なプロセスだと実感しています。

その中で、絵画の全国公募「FACE」におけるグランプリ作品は、今振り返ると、染色素材、技法の技術的な向上、魅せ方の理解、加えて、染色工芸に止まらず、現代美術、絵画からの視点も重ね合わせて制作した、自身の経験的蓄積から生まれた 1 つの到達点であったと思います。大学院生、全員でのグループ展示や企業のアートプロジェクトへの参加、染色の学生選抜展への作品出品など、たくさんのお話をさせてもらい、論文もそれらの経験をもとに執筆することができたと思います。

大学院を修了したあと、佐賀に留まり、高校の美術の非常勤講師をやりながら、制作活動を続けています。仕事をしながら、制作をすることの大変さを感じつつ、楽しみながら社会人生活を送っています。ゆっくり、着実に経験を積みながら、また面白い染色作品を作ることができるよう頑張りたいと思う、今日この頃です。10 月に大学校内でのグループ展の参加、ギャラリーでのワークショップ、11 月には唐津での展示などが控えているため、準備を進めていこうと思っています。

後輩のみなさんに、助言という助言ではないかもしれませんが、大学にいるうちにたくさんの経験を、たくさんの人との出会い、話をしてもらえればと思います。いつ当たり前が当たり前じゃなくなるかわからないこの世の中で、後悔しないように精一杯大学生活を楽しんでほしいと思います。